

第15回 神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール 優秀賞

神戸学院大学附属高等学校 3年 杉田めぐり訳

アーノルドのしま

アーノルドはずっとむかしから、ふなのりのゾウでした。

アーノルドは、うみをいちばんのともだちだとおもっていました。ところがあるひ、おおきななみが、ふねをのみこんでしまいました。

でもラッキーなことに、アーノルドのながいはなは、シュノーケルのかわりになりました。たくさんのじかんをかけて、ついにちいさなしまにつきました。

しまにのぼって、アーノルドはむかしのふなのりのことばをおもいだしました。

「ひとり、ひとり、ずーとひとり、ひろいひろいうみでひとりぼっち！」

だけどラッキーなことに、アーノルドのながいはなはトランペットにもなりました。パオーン！すると、「なにしてるの？」とおさかながきいてきました。

「SOS!たすけをよんでいるんだ！」とアーノルドはいいました。でも、たすけはきませんでした。

アーノルドはもういちどしまをグルッとみわたしました。そのとき、アーノルドのせんちょうさんのぼうしがながれてきました。

ぼうしをかぶったとき、うみのむこうにちいさいふねを見つけました。

ちいさいふねは、ネズミのふねでした。

やっとたすかった！バシャン！

アーノルドはなんとかしようとかんばりました。

うみをたびするアーノルドは、たくさんのむすびかたをしていました。

すこして、ふなのりのおじいさんがやってきました。

アーノルドはそーっとふねにのりこみました。ブクブクブク！

あらら！またやってしまいました。

すこしてつだってもらって、アーノルドはしまをおおきくしました。

つぎのひのあさ、さかなをとるふねが、すごいはやさでちかづいてきました。

でも、そのふねはこわれていました。ドン！

みんなぶじにしまのうえにあがれました。

アーノルドはあるものぜんぶをつかって、しまをおおきくしました。

キラキラしたつきのしたで、みんなはおどりました。

そして、よるのあいだずっと、クジラのうたをうたいました。

たのしいうたごえは、あっというまにみんなにひろまりました。

すぐに、みんなアーノルドのしまにむかって、しゅっぱつしました。

アーノルドはとてもよろこびました。「いつでもへやがあまっているからね！」

でも、たのしいじかんはつづきませんでした。あるひ、そらがくらくらなり、かぜがつよくなって、うみがあばれだしました。

みんながアーノルドをみました。

そろそろおうちにかえるじかんかな？

「ちょっとまって！」アーノルドはいいました。「もっといいかんがえがあるんだ！」